



令和4年度 研究員の研究分野についてお知らせします

研究テーマ 「一人一人が主体性を発揮できる学校づくり」
～子どもの気づきを起点とした学びを目指して～

対話で問いを磨く 探究的な学習

探究のサイクルを回すためには、探究の過程で問いが深まっていく必要があります。個の問いを深めていくために、対話を意図的に組み入れることが重要になります。思考ツールで情報を整理・分析することで、主体的・対話的に問いを深めていくことができます。対話を通して問いを深めることで、主体的に課題解決に向かう姿を目指します。（大橋）

対話を通して考え続ける 道徳の授業づくり

道徳授業において「正解のない問いに対して、対話を通して考え続ける」姿を目指し、実践を行っています。朝活動で「探究の対話 p4c」を行い、対話のための土台作りを行うと同時に、考えを深めるためのツール(Qワード)を用いて対話のスキルを身につけます。授業では、朝活動で身につけたスキルを用い、子どもが自己を見つめたり、多面的・多角的に考えられるようにします。（百田）

多様性を認め合える学級集団づくり

～一人一人の子どもよさや可能性を最大限に引き出すために～

子どもが主体性を発揮するためには、多様性を認め合い、他者と協働できる学級集団づくりが大切です。そのためには、学級集団の成長と個人の成長の往還が必要です。福井県版ポジティブ教育プログラムを用いて、自分の強みを発揮できる自立した「個」の成長をはかり、そこで学んだスキルを学校行事などで活かしていくことで、協働できる「学級集団」の成長をはかります。集団での学びを個の成長につなげ、個の学びを集団の成長につなげるサイクルの有効性について研究します。（栗原）

批判的思考を働かせる 国語の授業づくり

子どもが情報社会をたくましく豊かに生きていくためには、批判的に物事をとらえる力が必要です。この力は、国語科の「読むこと」では、文章を批判的に読むことで身につけていきます。実践では、読んでいるつもりをゆさぶったり、筆者の意図を考えたりして、「本当かな?」「なぜ?」などの気づきを学びにつなげていきます。考えを形成する過程で、書かれている言葉にこだわって考えたり、自分と他の意見を比較して考えたりすることで、主体的に文章に向かう姿を目指します。（谷江）

子どもの気づきを学びにつなげる 算数の授業づくり

学習のめあてを子どもの気づきから自分たちで設定することで、自ら学びに向かおうとする姿を引き出す授業づくりを目指します。場面提示の中で子どもたちに「どうすれば?」「なぜ?」という気づきを持たせるための仕掛けをつくります。また、子ども同士の対話により気づきを共有し、子どもたちの問いをもとに学習のめあてを設定します。「こうすれば…」「それよりも…」と、解決に向けて能動的に試行錯誤しながら学ぶ姿を目指します。（澤田）

2月に行われる嶺南教育実践フォーラムで研究成果を発表します。

